

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
①指導と評価の一体化の実現のため、教科横断的な視点で「聞く力」「考える力」「表現する力」を育成するための規準や方法の共有を推進する。 ②生徒が安心して主体的・対話的で深い学びを実現できる学習環境をつくり、すべての生徒にとってわかりやすい学習指導をめざす。 ③全教科でこれまでの実践を踏まえて、ICT機器を活用し、自ら考え表現できる生徒を育てる。特に、タブレット端末を活用し、「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を育む授業を展開する。 ④「体験的な学習」や「問題解決的な学習」を展開し、自ら学び、協働して課題を解決し、より難易度の高い課題に挑戦できる生徒を育成する。 ⑤学習の基本となる「教科書を読める読解力」の育成・定着を図る。 ⑥数学科で習熟度別、英語科で少人数授業を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ⑦英語科ではGTECの結果を踏まえ、生徒の状況に応じたカリキュラムの見直しを行う。第3学年では都「中学校英語スピーキングテスト」に向けて「話すこと」の充実を図る。

授業改善の重点
①教科横断的な視点でICT機器の操作を含む「情報収集力・活用力」を育成する。 ②指導と評価の一体化の実現を念頭に、「聞く力」「考える力」「表現する力」を育成するための授業づくりを行う。その中で、ICT機器を生徒自らが授業で操作する過程を意識的に設定するように心がける。 ③観点別評価のうち、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方や方法について、研修などを通じて研究し、適切な評価ができるようにする。 ④前年度までの人権尊重教育推進校としての研究の成果を踏まえながら、すべての生徒へのわかりやすさ、安心感を与えられる学習環境をつくる。特に少人数及び習熟度別の指導においては、個々の状況に応じた丁寧な指導を行う。

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、グループ活動等を通じ異なる視点の考え方を学ばせる。 他者との意見交換から伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 読解力につながる語彙力向上のために、教科書の語句の意味を調べさせ、言語感覚を豊かにする。 ICTを活用し情報の共有を図る。また説明や導入に視覚的な資料を取り入れ理解を深めさせる。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や話の展開を考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用することで視覚資料を充実させ、表現活動や鑑賞活動における発想や構想の向上を促す。 作品制作を通して美術の表現活動において、ワークシートの記入などによる中間チェックや振り返りの機会を設けて自身の課題を発見し、制作の見直しをもてるようにする。 生徒同士で作品の発表や鑑賞会を行い、制作者の意図や鑑賞者の感想を知る機会を設けて、他者の感情を想像する感受性を育み、豊かな情操を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を促す「体験的な学習活動」やインターネットを利用した調べ学習、グループワークや各種思考ツールを利用した深い学びなどを取り入れ、学ぶ意義や目的を明確にすることで、学び方や考え方を学ばせる「探究的な学習活動」を充実させる。また、発表活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 各種行事の事前、事後学習等で、生徒一人一人に自らのねらいや目標を明確化させ、達成させるための意図的、計画的な指導を全教職員で徹底する。また、生徒一人一人が自分あるいは自分たちの気持ちや考えを「表現する」活動を通して自治能力を養い、他者から賞賛・感謝される体験を積ませることで、自分の生き方を肯定的に捉える機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」に関して校内で研究してきた成果を生かし、道徳教育推進教師を中心に問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた指導方法を工夫し、また個々の成長を捉えた評価をすることで生徒の道徳性を養う。 教科書を主たる教材として使用し、考え、議論する授業を通して規範意識や公共心を高める指導、人権教育、命の大切さを考えさせる指導を行う。 学校行事の目的に道徳的な価値観を明示して指導、評価を行い、体験活動を通して思いやりの心、役割意識、責任感をもたせる。
	社会科	保健体育科			特別活動の指導の重点	
	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し「だれにでもわかる」学習環境を、UDの視点をふまえて保障できるように、教材・教具を工夫する。 タブレット端末を生徒が実際に活用し、情報を収集し、資料を比較検討したり、互いに共有し、発表したりすることで、主体的または協働的な学習ができる場面を設定する。 表現力を育むためにペア・グループワークを多用し、あわせて互いの意見を尊重する姿勢を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループによる教えあい活動、課題解決型、学習カードの工夫をし、自分の考えを上手に表現する力を育む。 全学年で統一したラジオ体操、準備運動、集団行動を引き続き実施し、集団力の育成を図る。そして授業への意欲、仲間への気付き等、心の成長を図るなど、心と体の一体化を目指し技能への向上へと繋げていく。 スポーツテストで課題となった、投力、柔軟性を高める準備運動を実践する。また、体づくり運動を工夫し生徒の基礎体力を高める。 ICT機器を利用し、視覚的に理解が深まるように授業環境を整備する。 			<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって学校生活の基本となる「学級活動」に関して、今まで進めてきた校内研究の成果を生かし、さらに充実させることにより各教員の指導力・実践力を向上させる。 生徒の意欲を引き出し、主体的・積極的に取り組める魅力的な行事を実施し、生徒にとっての「感謝される体験」を通して自尊感情を向上させ、学習や諸活動に積極的に取り組む意欲を喚起する。 部活動を適切に実施する中で、生徒一人一人の活躍の場を設定し、達成感・満足感を味わわせることで忍耐力・協調性等を育成し、自己実現への意欲を高める。 生徒会における自治的活動や校内・地域・連携小学校等での自発的なボランティア活動を通して、学校及び地域社会の一員として主体的に関わり貢献しようとする態度を育成する。 	
	数学科	技術・家庭科				
	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項等繰り返し丁寧な指導を行い基礎・基本の定着を図る。 グループ・ペア学習を多く取り入れ、協働して問題解決にあたらせ様々な見方や考え方を活用して問題を解決する力を身に付けさせる。 単元末に応用問題を扱い思考・判断・表現力を身に付けさせる。 長期休業中に計算問題を中心とした課題に取り組みせ、休業明けにテストを行い基礎学力の定着を図る。 内容に対する理解を深めるため、ICT機器を用いた授業、協働学習を取り入れた授業を行う。 第2・3学年に習熟度に応じた授業を行い、生徒の状況に対する理解を深め、個に応じた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践的、体験的な活動を積極的に授業に取り入れ、作業・実習の楽しさや面白さ、完成することの喜びを体得させられるような指導の工夫や活動の充実を図る。 基礎的、基本的な知識、技能の定着が図れるような教材の工夫を行う。その際、ICTの活用や教材・教具の工夫などの充実を図る。 現代の社会、生活に課題を見出し、より良い生活にむけての工夫や、学んだことを生活に生かす方法を考える活動を取り入れる。 				
	理科	外国語科				
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着として、長期休業中に課題を出す。 基礎学力を活用して実験結果の考察などを行い、思考・表現力を伸ばす。 実験結果の予想やまとめにグループ学習を取り入れ、言語活動を通して学び合いをさせる。 定期考査終了後のテスト直しを通して結果を分析させ、弱点に気づかせ、次回以降の改善につなげる。 補助教材のドリルやプリントを用いて、基礎・基本を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む活動として、ペアワークやグループワークを授業内で多く取り入れ、一人一人の生徒が発話する機会を増やす。また、音読テスト、スキットやスピーチを行い、生徒の表現能力を確認する。 ALT外国人講師との会話テストや表現テストを行い、英語を用いた会話を伸ばしていくと同時に、相づちなどの必要な表現も学ばせる。 長期休業中に英単語や連語の定着を図る課題をだし、基礎的な語彙力を補う。また、確認テストを行い、定着を図る。 既習表現を用いて、英語で説明をする力を養う実践の場として、TGG、宿泊行事での研修を行い、活きた英語を使って会話する機会を設ける。 ICT機器を用いてShow & Tellやスピーチの資料作成に取り組む。 				
音楽科						
<ul style="list-style-type: none"> 基礎の定着を目指すため、基本的な音楽記号を中心に指導していく。 「考える力」をのばすために、楽曲を、時代、作曲者の想い、歌詞、旋律、強弱などの音楽的要素から読み取り、特徴をつかみ、思いをもって曲と向き合えるように、自ら考察する学習活動を設定する。 「考える力」「表現する力」をのばすために、歌唱活動や器楽活動で、グループ学習を取り入れ、意見を出したり、よりよい表現のために練習をしたりする。 						

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	認め合う学び合う集団形成	振り返りの設定
	①Chromebookとプロジェクトによる一斉提示を活用した授業を全教員が実践する。 ②Googleアプリを活用した授業・教材づくりの効率化に全教員で取り組む。 ③一人一台のChromebookを活用し、生徒が自ら機器を操作し、主体的・対話的で深い学びが実践できる授業づくりに全教員が取り組み、活用の仕方の全校での共有を図る。	①話し合い活動では、「相手の意見を否定せず認める」「仲間はずれをつくらない」といった意識的な声かけや授業ルールを全教科で実践する。 ②ICT機器を活用し、自分の考えを表現し、共有する場面を意図的に増やす。	①指導と評価の一体化を念頭に、授業の目当てに正対したふりかえりを、板書・スライド(一斉提示)・プリントなどで明確に行うことを全教科で実践する。 ②「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習のまとまりごとの「見直し」を踏まえた「振り返り」ができるように、学習の記録やICT機器の活用を工夫する。

学力調査等の状況	
<p><国語> 東京都の正答率72%に対して本校は75%と上回っている。12ある項目すべての項目で東京都の平均を上回った。 <数学> 東京都の正答率54%に対して本校は60%と上回っている。12ある項目すべての項目で東京都の平均を上回った。 <英語> 東京都の正答率52%に対して本校は57%と上回っている。8ある項目すべてで東京都の平均を上回った。 <東京都の学力調査> 国語、数学、英語、理科において、授業の内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の合計が都の平均を上回っているが、社会科が下回ってしまった。 家庭学習時間は、平日・休日ともに2~3時間が最多である。</p>	

見えてきた課題	
<p><国語> 基本的事項の理解の上に、さらに主体的に深く学ぼうとする態度や自分の意見を正しく伝える手段を身に付けさせていきたい。 <数学> 計算問題や平易な問題には積極的に取り組もうとするが、難しい問題や筋道を立てて説明することが粘り強く取り組むことが苦手な生徒が一定数いるので、ICT機器などを活用しながら粘り強く取り組む姿勢を養っていく。 <英語> 4技能5領域の内、「書くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」の達成度合いが低い傾向にある。 <全体> 東京都学習状況調査では、「教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている。」生徒の割合が都平均54.6%、学校全体で55.3%・第3学年で46.3%と学年が上がるにつれて下がってきている。授業の中で見通しをもてるような指導を行うとともに、ICT機器やドリルソフトなどを活用して個別最適な学びを推進し、生徒一人一人が自分自身で習熟に関する調整ができるように指導する必要がある。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	①一人一台のChromebookを活用し、生徒が自ら機器を操作し、主体的・対話的で深い学びが実践できる授業づくり(特に発表や意見交換の場面において)に全教員が取り組み、活用の仕方を全校で共有する。②Chromebookとプロジェクトによる一斉提示を活用した授業を全教員が実践する。③Googleアプリなどを活用した授業・教材づくりの効率化に全教員で取り組む。
価値ある対話の共有	①ペアワーク、グループワークを積極的に行い、自分の考えを深める機会を設ける。活動にあたっては、「相手の意見を否定せず認める」、「仲間はずれをつくらない」といった意識的な声かけや授業ルールの設定を、全教科で実践する。 ②ICT機器を活用し、自分の考えを表現し、共有する場面を意図的に増やす。
振り返りの設定	①指導と評価の一体化を念頭に、授業の目当てに正対したふりかえりを、板書・スライド(一斉提示)・プリントなどで明確に行うことを全教科で実践する。②「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習のまとまりごとの「見通し」を踏まえた「振り返り」ができるように、学習の記録やICT機器の活用を工夫する。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、グループ活動等を通して異なる視点の考え方を学ばせる。 他者との意見交換から伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 読解力につながる語彙力向上のために、教科書の語句の意味を調べさせ、言語感覚を豊かにする。 ICTを活用し情報の共有を図る。また説明や導入に視覚的な資料を取り入れ理解を深めさせる。 「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や話の展開を考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、スムーズで視覚的にわかりやすい授業を行う。 話し合い活動を通し、相手の意見を参考にして、自分の考えを深める活動を行う。 辞書を活用し、教科書にある語句の意味を調べ、語彙力を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、見やすくわかりやすい授業展開を心がける。 書く活動を通して、自分の意見を時間内にまとめる力をつける。 単元の中で意見を交流をする機会を多くすることで自分の考えを深めさせる。 辞書の活用を通して、言葉の意味を調べ理解することで語彙力を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりを通じて自分の意見を深めるために、ICT機器を活用し、意見の共有や発表につなげる。 各単元のまとめとして短作文を書くことで、自分の意見を時間内にまとめ、文章にする力をつける。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し「だれにでもわかる」学習環境を、UDの視点をふまえて保障できるように、教材・教具を工夫する。 タブレット端末を生徒が実際に活用し、情報を収集し、資料を比較検討したり、互いに共有し、発表したりすることで、主体的または協働的な学習ができる場面を設定する。 表現力を育むためにペア・グループワークを多用し、あわせて互いの意見を尊重する姿勢を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り方の指導でICT機器を活用し、視覚的に理解を深める。一人1台端末を活用し個別の課題を設定し、技能を習得させる。 ペア・グループワークで、生徒が主体的に思考する機会を増やし、記録シートなどの記述問題に取り組むことで表現力を身につける。 知識の定着を図るためにnavimaを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、資料映像やデータを提供し、生徒が思考する場を設定する。 グループワークの中でICT機器を活用することにより、生徒の意見交換を活発にするとともに、適切に表現する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア・グループワークの中で、生徒の意見交換を活発にするとともに、適切に表現する力を身につける。 ICT機器を活用し、映像資料等を用いることで現代社会を身近に感じ、主体的に取り組むことができるようになる。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項等繰り返し丁寧な指導を行い基礎・基本の定着を図る。 グループ・ペア学習を多く取り入れ、協働して問題解決にあたる様々な見方や考え方を活用して問題解決する力を身に付けさせる。 単元末に応用問題を扱い思考・判断・表現力を身に付けさせる。 長期休業中に計算問題を中心とした課題に取り組ませ、休業明けにテストを行い基礎学力の定着を図る。 内容に対する理解を深めるため、ICT機器を用いた授業、協働学習を取り入れた授業を行う。 第2・3学年に習熟度に応じた授業を行い、生徒の状況に対する理解を深め、個に応じた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いや、全体考察を元に各自の考えを深めさせる。(認め合う・学びあう集団) 関数、図形の指導において電子黒板やデジタル教科書等ICT機器を利用し、具体的なイメージをもたせる。(見方や考え方) 授業初めに目標を提示し、授業の終わりに授業の振り返りを書かせる。(振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた話し合いや、全体考察をもとに各自の考えを深めさせる。(認め合う・学びあう集団) 電子黒板やデジタル教科書等のICT機器を利用し、具体的なイメージをもたせる。(見方や考え方) 授業初めに目標を提示し、授業の終わりに振り返りをさせる。(振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた話し合いや発表をもとに各自の考えを深めさせ、難しい問題にも粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせる。(認め合う・学びあう集団) 電子黒板やデジタル教科書等のICT機器を利用し、具体的なイメージをもたせる。(見方や考え方) 授業初めに目標を提示し、授業の終わりに振り返りをさせる。(振り返り)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着として、長期休業中に課題を出す。 基礎学力を活用して実験結果の考察などを行い、思考・表現力を伸ばす。 実験結果の予想やまとめにグループ学習を取り入れ、言語活動を通して学び合いをさせる。 定期考査終了後のテスト直しを通して結果を分析させ、弱点に気づかせ、次回以降の改善につなげる。 補助教材のドリルやプリントを用いて、基礎・基本を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な現象や、生き物の仕組みに興味を持たせ、関心を高めることで意欲的に学習する態度を育成する。また、班やペアでの話し合い活動や協同作業を通して互いに話し合い表現能力を高めていく。思考力を養っていく。 定期考査にどんな問題が出題されるかを自分で予想しながら、学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子、細胞、電気といった目に見えない物質・現象についてICT機器を活用して理解を深めていく。また、班やペアでの話し合い活動、仮説をもとに実験方法を考えたりするなどして、表現能力とともに科学的思考力を養う。 実験の考察や、小テストで、知識の定着・思考力の向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で培った知識を生かし、話し合い活動を行う。話し合い活動を通して、表現能力を向上させる。また、授業ごとに振り返りを行い知識の定着をはかる。実験・観察レポートでは、スキッチの技能の向上、思考能力を他の事象と関連して考えることができる力を養っていく。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む活動として、ペアワークやグループワークを授業内で多く取り入れ、一人一人の生徒が発話する機会を増やす。また、音読テスト、スキットやスピーチを行い、生徒の表現能力を確認する。 ALT外国人講師との会話テストや表現テストを行い、英語を用いた会話力を伸ばしていくと同時に、相づちなどの必要な表現も学ばせる。 長期休業中に英単語や連語の定着を図る課題をだし、基礎的な語彙力を補う。また、確認テストを行い、定着を図る。 既習表現を用いて、英語で説明する力を養う実践の場として、TGG、宿泊行事での研修を行い、活きた英語を使って会話する機会を設ける。 ICT機器を用いてShow & Tellやスピーチの資料作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が音読練習や家庭学習においてデジタル教科書を活用するよう、さらに促していく。 TGGでのコミュニケーション活動を通して高まった英語学習に対する意欲を継続できるように、ペアでのコミュニケーション活動を帯活動として継続的に取り入れていく。 授業の最後に振り返りを書く時間を設定し、学習した内容を認識する機会を設けている。家庭での復習を意識できるように声掛けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でコミュニケーション活動を多く取り入れ、話す活動においての即興性を養う。 スライドを用いて授業を行い、視覚的にわかりやすい授業を行う。 授業を振り返る時間を設定し、自身の達成したことや、課題を振り返り、次回の授業生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題点「思考・判断・表現能力の向上」 改善手立てとして2つあげる。まず授業内で、生徒に考える時間を十分に設ける。またその考えをシェアする時間を設ける。次に、教師からのフィードバックを十分に与える。そのフィードバックを通して、生徒の表現技術の向上を図る。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎の定着を目指すため、基本的な音楽記号を中心に指導していく。 「考える力」を伸ばすために、楽曲を、時代、作曲家の思い、歌詞、旋律、強弱などの音楽的要素から読み取り、特徴をつかみ、思いをもって曲と向き合えるように、自ら考察する学習活動を設定する。 「考える力」「表現する力」をのばすために、歌唱活動や器楽活動で、グループ学習を取り入れ、意見を出したり、よりよい表現のために練習をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で習った、基本的な音楽記号を中心に、読譜力の定着を目指して指導していく。 楽曲を、時代背景や、作者の思い、歌詞や、強弱などの要素から、特徴を掴み、自ら考察する学習活動を設定し、音楽的感性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲から、演奏形態や音楽形式を知覚できるように、聴く力を伸ばせる授業の展開に取り組む。 デジタル教科書を活用し、豊富な音源やカバーでの写真提示を行う授業を展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までに習った題材と比較しながら、既習事項を振り返り、学習活動を進めていく。 聴く力、聴いて感受する力を伸ばすために、意見交換の時間を積極的に設けて、相手の意見も認め、受け入れるような問いかけをしていく。
美術科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用することで視覚資料を充実させ、表現活動や鑑賞活動における発想や構想の向上を促す。 作品制作を通した美術の表現活動において、ワークシートの記入などによる中間チェックや振り返りの機会を設けて自身の課題を発見し、制作の見直しをもてるようにする。 生徒同士で作品の発表や鑑賞会を行い、制作者の意図や鑑賞者の感想を知る機会を設けて、他者の感情を想像する感受性を育み、豊かな情操を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞ではICT機器、ChromeBookを活用し、作者の表現や意図の感じ方を広げられるようにする。 作品制作の振り返りの時間を確保し、具体的な制作課題を見つけられる場を設ける。 生徒同士の作品の鑑賞時間を設定し、メッセージカードを作り、互いの表現意図を感じ深め、豊かな情操を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞ではICT機器、ChromeBookを活用し、作者の表現や意図の感じ方を広げられるようにする。 作品制作の振り返りの時間を確保し、制作課題を見つけ、改善するための具体的な手立てを考えられるように問いかけていく。 生徒同士の作品の鑑賞時間を設定し、多様な表現方法を認め、見方や感じ方を深められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞ではICT機器、ChromeBookを活用し、作者の表現や意図の感じ方を広げられるようにする。 作品制作の振り返りの時間を確保し、制作課題を見つけ、改善するための具体的な手立てを考えられるように問いかけていく。 生徒同士の作品の鑑賞時間を設定し、多様な表現方法を認め、見方や感じ方を深められるようにしていく。
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> グループによる教えあい活動、課題解決型、学習カードの工夫をし、自分の考えを上手に表現する力を育む。 全学年で統一したラジオ体操、準備運動、集団行動を引き続き実施し、集団力の育成を図る。そして授業への意欲、仲間への気付き等、心の成長を図るなど、心と体の一体化を目指し技能への向上へと繋げていく。 スポーツテストで課題となった、投力、柔軟性を高める準備運動を実践する。また、体づくり運動を工夫し生徒の基礎体力を高める。 ICT機器を利用し、視覚的に理解が深まるように授業環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材の活用をし授業を展開する。Chromebookを一人一台使用して授業を行うことに課題がある。使用については研修や他校の様子を聞きながら改善を図る。 「相手の意見を否定せず認める」、「互いに高め合う集団づくり」を基本とし、教えあいでは、調べた知識を積極的に活用し互いの技能向上に生かすことを目指す。 振り返りは、次の授業につながるようワークシートの作成を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材による一斉提示を活用した授業を展開し、視覚の工夫、わかりやすい授業を実践する。また、一人一台端末を使用し、深い学びへとつながる授業展開へとする。 「相手の意見を否定せず認める」、「互いに高め合う集団づくり」を基本とし、教えあいでは、調べた知識を積極的に活用し互いの技能向上に生かす。 振り返りは、目標達成に向けた工夫、工夫による変化を書き出し、次の授業で態度、思考、技能の向上につながるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材による一斉提示を活用した授業を展開し、視覚の工夫、わかりやすい授業を実践する。また、一人一台端末を使用し、深い学びへとつながる授業展開へとする。 「相手の意見を否定せず認める」、「互いに高め合う集団づくり」を基本とし、教えあいでは、調べた知識を積極的に活用し互いの技能向上に生かす。 振り返りは、目標達成に向けた工夫、工夫による変化を書き出し、次の授業で態度、思考、技能の向上につながるよう工夫する。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 実践的、体験的な活動を積極的に授業に取り入れ、作業・実習の楽しさや面白さ、完成することの喜びを体得させられるような指導の工夫や活動の充実を図る。 基礎的、基本的な知識、技能の定着が図れるような教材の工夫を行う。その際、ICTの活用や教材・教具の工夫などの充実を図る。 現代の社会、生活に課題を見出し、より良い生活にむけての工夫や、学んだことを生活に生かす方法を考える活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器に工具の使い方を動画で撮影し、活用して授業を展開していく。 ICT機器を活用して授業内容に関することや各自が疑問に思ったことを調べさせてレポートにまとめさせる。 グループワークで、生徒が主体的に思考するためのICTのアプリを活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの中でICTのアプリを活用して授業を展開していく。 ICT機器を活用して授業内容に関することや各自が疑問に思ったことを調べさせてレポートにまとめさせる。 自己の生活をより良くしていく実践をグループワークを取り入れながら授業を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの中でICTのアプリを活用して授業を展開していく。 ICT機器を活用して授業内容に関することや各自が疑問に思ったことを調べさせてレポートにまとめさせる。 自己の生活をより良くしていく実践をグループワークを取り入れながら授業を進めていく。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を促す「体験的な学習活動」やインターネットを利用した調べ学習、グループワークや各種思考ツールを利用した深い学びなどを取り入れ、学ぶ意義や目的を明確にすることで、学び方や考え方を学ばせる「探究的な学習活動」を充実させる。また、発表活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 各種行事の事前、事後学習等で、生徒一人一人に自らのねらいや目標を明確化させ、達成させるための意図的、計画的な指導を全教職員で徹底する。また、生徒一人一人が自分あるいは自分たちの気持ちや考えを「表現する」活動を通して自治能力を養い、他者から賞賛・感謝される体験を積ませることで、自分の生き方を肯定的に捉える機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、アンケート、調べ学習、発表に活用していく。 進路学習として、職業について調べ、将来をイメージさせる。 各行事で、キャリアパスポートを作成し、3年間の取り組みをいつでも振り返ることができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、アンケート、調べ学習、発表に活用していく。 進路学習として、働くことについて調べ、将来をイメージさせる。 各行事で、キャリアパスポートを作成し、自分の取り組みをいつでも振り返ることができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、アンケート、調べ学習、発表に活用していく。 進路学習として、上級学校について調べ、自分自身の進路を考えさせる。 各行事で、キャリアパスポートを作成し、自分の取り組みをいつでも振り返ることができるようにしていく。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」に関して校内で研究してきた成果を生かし、道徳教育推進教師を中心に問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた指導方法を工夫し、また個々の成長を捉えた評価をすることで生徒の道徳性を養う。 教科書を主たる教材として使用し、考え、議論する授業を命で規範意識や公共心を高める指導、人権教育、通の大切さを考えさせる指導を行う。 学校行事の目的に道徳的な価値観を明示して指導、評価を行い、体験活動を通して思いやりの心、役割意識、責任感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者理解を深め、相手を思いやる心を育成する。 ICTを活用し、映像教材、音声、画像などを用いて、生徒がイメージしやすい授業展開を行う。 少人数で議論することで、発言の機会を増やし、積極的に参加する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解だけでなく、他者理解を深め、意見を受け入れる広い心を育成する。 ICTを活用し、映像教材、音声、画像などを用いて、生徒がイメージしやすい授業展開を行う。 少人数で議論することで、発言の機会を増やし、クラス全体でも発言できる態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えがどこから生じているかを考えることで自己理解を深める。 ICTを活用し、映像教材、音声、画像などを用いて、生徒がイメージしやすい授業展開を行う。 少人数で議論することで、発言の機会を増やし、クラス全体でも発言できる態度を養う。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって学校生活の基本となる「学級活動」に関して、今まで進めてきた校内研究の成果を生かし、さらに充実させることにより各教員の指導力・実践力を向上させる。 生徒の意欲を引き出し、主体的・積極的に取り組める魅力的な行事を実施し、生徒にとっての「感謝される体験」を通して自尊感情を向上させ、学習や諸活動に積極的に取り組む意欲を喚起する。 部活動を適切に実施する中で、生徒一人一人の活躍の場を設定し、達成感・満足感を味わわせることで忍耐力・協調性等を育成し、自己実現への意欲を高める。 生徒会における自治的活動や校内・地域・連携小学校等での自発的なボランティア活動を通して、学校及び地域社会の一員として主体的に関わり貢献しようとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの一員として、係や班活動の役割を果たし、充実した生活を送れるようにする。 学校行事を通して、全力で取り組む大切さを伝え、行事に積極的に参加する態度を養う。 部活動、委員会活動に参加することで、自分自身の役割を全うできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの一員として、係や班活動に積極的に参加し、充実した生活を送れるようにする。 学校行事を通して、上級生の行動を見て、自分たちがどう行動すべきかを考え、行動できるようにする。 部活動、委員会活動に参加することで、上級生の行動を見て、自分たちがどう行動すべきかを考え、行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの一員として、係や班活動に積極的に参加し、充実した生活を送れるようにする。 3年間の学校行事を通して、上級生として自主的に活動できるようにする。 部活動、委員会活動に参加することで、上級生として自主的に活動できるようにする。